



いま求められる、自治体職員の『発信する力』

井上 あい子

a i 株式会社 代表取締役／NPO法人HI NT 副理事長

最初に、世界の I T 事情を私が調査したもので、少しご紹介をさせていただきます。



(ctrl キーを押しながら画像をクリックして下さいね！外部サイトに移動します。)

移動しない場合は、→ <http://iam15.blog.eonet.jp/default/2012/10/post-e394.html>

↑↑↑ご覧になって頂き、ご参考になるものは、ございましたでしょうか？

国内といえば、昨今、日本全国（一部の地域を除く）において、I C T を利活用した地域活性化や地域の課題解決に向けた様々な取り組みが行われています。成功事例も失敗事例もございますが、何が原因で成功をされたのか、失敗をされたのかを探求していきますと、ほとんどの場合において、その事業に携わった【人】がキーワードであるように思います。

これからの地域のプロデューサーとして、私が最も期待する【人】は、自治体職員の皆様方です。理由ですが、その地域の現場を知りつくし、他地域とは異なる地域の多様な特性や住民のニーズを誰よりも掌握されている【人】だからです。そして、職員の皆様は、職務を離れて地域に帰れば、自治会やボランティア等の地域活動において活躍をされているケースが多いと考えます。【人】によって得意分野は異なりますが、日々、地域住民が安心して快適な暮らしを送るために裏方として支えていらっしゃる当事者ご自身が、ご承知の事と思います。

しかしながら、自治体から発信される“地域”の情報は、情報を発信する【人】が、情報を受け取って欲しいと願う【人】や地域外の【人】に対して、例えば、気楽にその地域を訪れたい・その地域の特産品を買いたい・その地域に定住したいとなるような情報を他地域と競争しても勝るような、充分満足した提供を行えているのでしょうか？情報の伝達手段を即時性にこだわり、ソーシャルメディア等を利活用しているのでしょうか？情報を受け取る側の立場に立って、地域住民と一緒に確認をされているのでしょうか？有事の際に、一人でも多くの【人】に対して、情報を迅速に伝達するために、普段からICTの利活用について検証をしたり、NPO法人等の団体との協業や連携を模索されているのでしょうか？

上記について、多くの自治体から、地域情報化における課題であると伺います。

老若男女を問わず、わかりやすい情報伝達とは、コンテンツを活用した情報発信であると考えます。コンテンツは、画像や映像や音声など、文書だけではわかりにくいものに対して補足的なものということです。従いまして、ユニバーサル社会における幅広い世代に対して、同時に、大勢の【人】に対して情報を伝達するためにコンテンツを利用しない手はございません。

ICTは、情報通信技術の技術が先行したイメージがありますが、【人】と【人】を繋ぐための技術であり、一番大切なことは【人】と【人】のコミュニケーションと情報共有です。ICTの利活用については、【人】によって使用頻度や使用することへの温度差がありますので、「活用ができればお得ですよ。」「業務の効率化に繋がりますよ。」そして、「空いた時間で外に出かけて行きましょうよ。」が、私の持論です。あくまでも情報発信や情報収集手段のひとつであり、業務の効率化が可能になれば、空いた時間で地域に出向き、【人】と交流を深めることで、その地域の課題解決の選択肢や可能性が広がります。そして、産まれた時から、スマートテレビやスマートフォン、ソーシャルメディア等が存在し変革する時代で育っていく【人】に対しても、これまでのこれからの地域の文化や技術の伝承など、後世に伝えていくべきコンテンツが、地域には山ほどあります。

ICTの享受によって、そこに暮らす人やそこで働く人が元気であり、何よりも【人】を育てる地域（土壌）であるということ。これが、地域の魅力となり【人】が集まる事で、地域の活性化に繋がります。【人】がキーワードで、地域づくり＝国づくりは【人】であるからこそ、自治体職員ひとりひとりが、『発信する力』を身につけて頂き、ICTを駆使して、地域をリードしやすいような環境を速やかに整えて頂きたいと願います。

そのためには、①現場を仕切れる人を作る。②組織を横断する。③既にあるものとコラボレーションをする。

自治体職員の皆様方に期待を寄せて。

私の想いを書かせていただきました。このコラムをご覧になった方で、旅好きな方がいらっしゃいましたら、こちらのブログをどうぞ。<http://iam15.blog.eonet.jp/>
ご笑納をして頂き、何かの H I N T になれば光栄に思います。

私の話は以上です。

【人】が元気な地域は魅力にあふれていると思いませんか？！

是非ともご一緒に、地域を元気にしてまいりましょう！

さて、バトンは熱い神戸から沖縄の鈴木邦治さんに引き継ぎます。鈴木さんは、名護市やその周辺の市町村の活性化に取り組まれています。

鈴木さんの熱い話をお聞かせ下さい。どうぞ、宜しくお願い致します。